



<展覧会 開催のお知らせ>

UNPEL GALLERY（アンペルギャラリー）では、運営母体である「あいおいニッセイ同和損保」のメセナ活動の一環として、全国の大学、美術大学で日本画を学んだ学生の展覧会を 2021 年より開催しています。

この活動は、さらなる「文化芸術振興」を目指し、若手の日本画家を対象とした発表の場の提供、また地方大学の卒業作品展示等や各地域と連動した企画の実施により「地方創生」を推進するギャラリー開設の主旨によるものです。

今回は 7 月 26 日(火)から、京都芸術大学美術工芸学科日本画コース在籍の教員二名による展覧会『REFLECTION』を開催いたします。

■タイトル / 『REFLECTION』

■サブタイトル/ 京都芸術大学 日本画コース「画心展」 S e l e c t i o n

■会 期 / 2022 年 7 月 26 日(火)～8 月 10 日 (水) 11:00～19:00* (月曜定休)【入場無料】

*最終日 8 月 10 日 (水) は、17:00 まで

コロナ感染拡大の状況により、開廊日や営業時間を変更する可能性があります

ご来廊の前には必ずギャラリー の HP/ <https://unpel.gallery> または Twitter/ https://twitter.com/unpel_gallery/ をご確認ください

■会 場 / UNPEL GALLERY

東京都中央区日本橋 3-1-6 あいおいニッセイ同和損保八重洲ビル 1F

■参加作家名 (ふりがな)

・ 出口雄樹 (イデグチ ユウキ) ・ 岩泉慧 (イワイズミ ケイ)

■主 催 / 京都芸術大学 美術工芸学科 日本画コース

■企 画 / UNPEL GALLERY

■協 賛 / あいおいニッセイ同和損害保険株式会社

■展覧会内容

京都芸術大学美術工芸学科日本画コースに在籍する教員 2 名による展覧会『REFLECTION』を開催いたします。出口、岩泉の両名はこれまでさまざまなメディアで自身の作品を発表していますが、今回は最新のペインティングを中心に展示します。

光源の限られた時代において、「光」をいかに取り込むかは大きな課題であり、その意味において襖絵や掛け軸などは空間も含めて一つの作品でした。それらの空間演出を支えたのは、質感表現が豊かな日本画の素材です。岩絵具や金箔や銀箔、雲母、三桠紙、雁皮紙、絹などは「光の反射」を引き起こす素材の代表格でした。現代では、金属やアクリル版、顔料など様々な反射系の素材の開発が進んでいます。そこで、本展覧会では、日本画で一般的ではない反射系素材を含む現代の新素材の可能性を追求し、それらを用いた作品を紹介します。

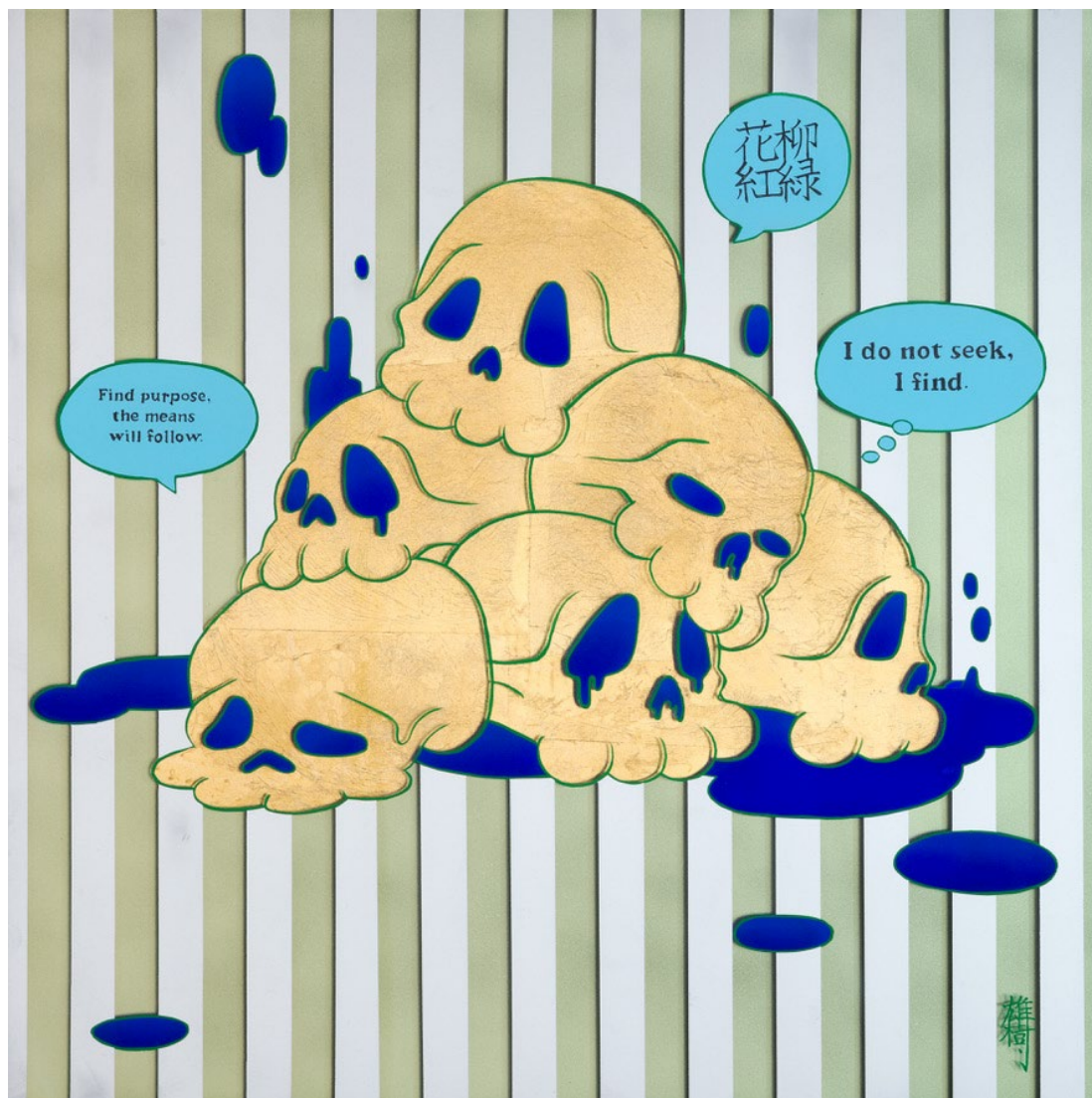
そして、本展覧は 2004 年より京都造形芸術大学の日本画コースの教授であった故：石本正氏によって命名され発足した日本画コースの選抜展「画心展」に依拠します。画心展はこれまで在学生から教員まで京都芸術大学にゆかりのある作家を選抜し、日頃の研鑽の成果を世に発表して参りました。

19 年目となる本年は UNPEL GALLERY にその場を移し開催します。新たな日本画表現を試みる若き二人の俊英の作品をこの機会にご高覧いただけましたら幸いです。

各作家、大作を始め、小作品、インスタレーション、など約 20 点展示予定

出口雄樹 / Yuki Ideguchi

1986 年生まれ、福岡県出身。東京芸術大学美術学部絵画大学院修士課程日本画専攻修了。2013 年より渡米し、NY を中心に日本、アメリカ、フランス、ポーランド、インド、韓国、中国、台湾などで作品を発表。2020 年からは京都を拠点に制作活動を行う。高校時代のグラフィティの経験と、大学在学時の洋の東西を問わない古典模写・日本画の研鑽を通して、現在は、日本の伝統的な画材・技法と、アクリル絵具やスプレーペイントなど近代画材を併用する独自の方法で、新たな具象絵画の可能性を追求している。絵画を中心に、映像作品・インスタレーションも制作、2021 年にはクラクフ国立美術館で展示を行い同美術館の収蔵となった。代表的なシリーズとしては『Waterfall Mansion』、『Subliminal Switch』、『Still Alive』などがある。



Melting Skulls 2022, 90×90cm, Mixed media on Acrylic plate

岩泉慧 / Kei Iwaizumi

1986 年生まれ、神奈川県出身。2015 年に京都造形芸術大学大学院博士課程修了 博士号（芸術）取得。画材ラボ PIGMENT TOKYO 元館長。画材の研究、指導を行いながら、美術館や政府機関の要請でのワークショップや画材メーカーの商品開発に携わるなど多岐にわたり絵画技法材料の普及活動に努める。また作家としても古典絵画や画材研究で培われた知識と技術を取り入れ、作家活動が続いている。現在は技法材料の持つ物質的特性と気象データを用いる独自の手法で物質と非物質のあいだに存在する事象を絵画やインスタレーション等で表現しようと試みている。代表的なシリーズとして「神域山水」「神奈備 Halo NS,EW」「かはだれそ、だれそかれ」などがある。



かはだれそ だれそかれ

2022, インスタレーション, 木枠にグラスオーガンジーアクリル板にメッキ塗装寒天



神域山水- 熊野本宮-2021/10/24-

2022, 10×31.4cm 木枠にグラスオーガンジー墨 エフェクト顔料 金泥 銀泥 蓄光顔料

◆講座 開催のお知らせ◆

「煌めく日本画材の過去と今」(仮題)

会期中作品解説も交えた日本画の材料に関する講座を開催予定です。

※詳細は決まり次第 Web または Twitter にてお知らせいたします

＜ご連絡・お問い合わせ先＞

■ギャラリーオフィス 11:00~19:00 (担当 /中島 内城)

* お問い合わせは下記 E-mail にてお願いします

E-mail / tsubaki@un-pel.com TEL / 03-3548-7780 FAX / 03-3548-7781